

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800449		
法人名	秩父福祉会		
事業所名	グループホーム ひなた		
所在地	埼玉県秩父市吉田久長193		
自己評価作成日	令和3年12月23日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和4年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年開所以来、法人の基本理念「安全・安心・ご利用者本位の、地域に開かれた施設運営」を目指しています。当グループホームは、利用定員が9名と少人数ですが、アットホームな雰囲気です利用者一人ひとりがホームでの生活に生きがいを感じ生活ができるよう目指しています。また、法人内の管理栄養士と相談をしながら健康状態に応じた食事の提供と水分摂取、口腔ケアの実施、行事を計画し、利用者、職員ともに感動共有が図れるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 月に1回の職員会議を通して情報共有にあたっています。各職員の勤務形態の違いが利用者への認識の違いとならないよう申し送り・連絡に注力となされており、職員の連携を大切にしていることが理解できます。
- ケアプランに沿った支援がなされているか記録様式・方法が整備されています。また業務支援ソフトおよびLIFE(科学的介護情報システム)の導入がなされており、活用により利用者の健康維持・向上に役立てるよう努めています。
- 常時の換気に加え、加湿器、サーキュレーター、空気清浄機を使用し、厳格な衛生管理と職員への留意にあたっています。コロナ禍にあっても利用者の活動、家族への連絡等に配慮し、特長である支援の質や温かさを維持できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気と落ち着いた環境の中で生活が送れるように、当法人の基本理念の「白砂恵慈園三訓」を掲示し、日々の業務につなげている。	理念・方針・施設概要は法人ホームページにて誰もが見られる環境となっている。理念の浸透と共に職員間の情報共有と連携に注力がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により外出の機会が減少になり地域とのつながりや交流が制限されてしまった。	新型コロナウイルスの影響により施設内他事業所を含め交流を縮小・中断している。外部との接触の大切さを理解しており、終息後の再開が待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込み等の相談があった場合には必要に応じた助言や支援を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において書面にて利用者様の状態、ホームの活動状況の報告を行い、委員との意見交換や情報提供、助言をいただいた。10月より運営推進会議を感染対策を行ったうえで開催を始めている。	新型コロナウイルス新規感染者減少期間においては対面開催が実現している。感染状況を考慮しながら書面開催との併用にあたる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に秩父市役所吉田総合支所市民福祉課課長、吉田包括支援センター職員と情報共有を行い日頃から協力関係を築いています。	行政および地域包括支援センターとは顔が見える関係が構築されており、情報共有と連携により地域への貢献にあたっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上19時から7時まで施錠を行っているが、月1回の会議や勉強会を通じ身体拘束への理解を心掛け、状況に応じて見守りや対応を行っています。	職員会議や勉強会にて身体拘束への理解が深まるよう研鑽にあたっている。コロナ禍にあっても行動制限を最小とし、利用者に我慢ばかりを強いることのないよう努めている。	併設の特別養護老人ホームも身体拘束廃止委員会を開催しており、共催により多くの事例考察や業務効率向上が図られることが予想される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期会議で高齢者虐待防止関連法について学び職員間で虐待防止の共有を図り、不適切なケアが虐待を引き起こしていないか確認を努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会等で成年後見制度を学んでおります。権利擁護に関する情報を職員間で共有し必要に応じて家族等に助言できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時にはご家族様やご本人に同席して頂き、説明契約書や重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、理解と同意を得ています。更に不安や疑問等がないかの確認も行いながらすすめています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の要望は気兼ねなく話せる雰囲気作りに努め、会議や日々の業務内で検討している。これからも運営に反映させて行きたい。	居室担当者による写真付きの便り、密なる連絡等にて家族への報告に努めている。コロナ禍での面会については利用者や家族の状況にあわせて柔軟に対応し、不安払拭に取り組んでいる。	①緊急時における遠方の家族との対応、②通院同行に対するホームの負担軽減、③将来的な後見制度の活用、④入居後まもない家族との関係構築等について課題として認識しており、法人・職員等と検討・考察を進めることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務内や定期会議、ストレスチェックなどを行い、積極的に職員とコミュニケーションを図り意見や提案を聞くように心掛けている。職員の意見を取り入れ運営に反映させています。	月に1回の職員会議を通して情報共有にあたっている。各職員の勤務形態の違いが利用者への認識の違いとならないよう申し送り・連絡に注力がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、労働条件の要望について職員間で意見交換を行い、法人内の労働安全委員会や法人内の代表者会議等で職場の改善に向けた提案を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修への参加や、定例会議では月ごとに研修内容を決め職員間で伝達研修を実施し職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修に参加、交流を行う予定であったが、コロナ禍のため行うことができなかった。今後は他事業所とコロナ禍であってもできる取り組みを検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人、家族、ケアマネジャーに面談や情報提供を実施。課題要望等を聞き出し初めての利用であっても安心してサービスを利用につながるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホーム入所までの家庭での様子や在宅サービスの利用状況、要望等を聴き、家族が安心できるよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、家族のこれまでの取り組みや要望等を確認し、地域の福祉サービスの紹介や説明を行い、その方に適したサービスの助言をするように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で利用者の立場に立ち、それぞれの思いに耳を傾けられるように心がけ、家族と同じような関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子をお便りで報告、電話や来訪時の家族との会話も大切に、一緒に考えて支えあえる信頼関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での制限により、馴染みの人と交流が希薄になった傾向は否めない。従来の環境状態に早く戻り馴染みの人と場所の関係を取り戻したいです。	利用者の馴染み・趣向・嗜好を大切にするよう取り組んでいる。コロナ禍にあっても衛生に留意しながらカラオケや行事を楽しみ、生きがいをもって生活できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や相性などを考慮し職員が間に入るなどの配慮を行い利用者同士が関われるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には必ず今後も「何かあればご相談下さい」と話している。中には契約が終了しても家族が顔を出してくれたり、外出時に声をかけてくれる方もいらっしゃいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日々の関わり会話の中で、本人の要望等を聴き取り、困難な場合は本人の立場に立ち、家族にも相談し職員間で検討・決定しています。	利用者の重度化によりだんだんと意向を把握しづらくなっている傾向を認識している。職員が課題を一人で抱え込まず、全職員で協議をしながらその人らしい生活の実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの生活歴、暮らし方、生活環境、趣味や嗜好の聞き取りを行い、職員間で情報の共有と把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴やグループホームでの日々の援助で得た情報を職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態に適した対応を心掛けています。日頃の状態を家族に報告し、本人や家族の要望を踏まえて介護計画を作成し実践しています。	ケアプランに沿った支援がなされているか記録様式・方法が整備されている。業務支援ソフトおよびLIFEの導入がなされており、更なる習熟と活用に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には介護記録・連絡ノートに目を通し、職員間で情報共有を図っています。また、いつでも職員が確認できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状態や希望に応じて通院・買い物・理美容・書類の手続き等は臨機応変に対応し個々に満足が得られるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域資源とグループホーム・入居者を結びつける事が課題となっている。今後も地域資源との連携を図り安全で豊かな暮らしができるよう支援を行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人、ご家族様の希望を優先し適切な医療が提供できるように努めています。ご家族様の付き添いが困難な場合は送迎等の支援も行っています。	入居前からのかかりつけ医への継続受診がなされており、低栄養・便秘等の改善に対して指示を仰ぎながら対応にあたっている。家族との連携、職員間の情報共有をこころがけ、医療機関に対して適切な情報を提供できるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づきや状態の変化が生じた時には、隣接するデイサービスや特養の看護職員と連携を図り対応しています。受診や急変時の協力体制を構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換を行い、退院へ向けた調整や退院後のグループホームでの生活へのアドバイスをいただく等、関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応の説明しています。その後は家族と重度化、終末期について話し合う場を設けています。グループホームでの看取りや法人内の特養への入所も選択肢の一つとして情報提供させていただいています。	入居契約時に終末期および重度化への支援、退居の条件等について説明している。法人として他サービスを運営しており、連携しながら利用者・家族にとって最善の環境を選択できるようサポートに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議での研修や、緊急時のマニュアルを整備・検討を行い急変や事故発生時に対応できるように備えている。施設内にAEDを設置して、使用方法の知識も高めるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	内部研修会の実施や消防署の立ち合いのもと避難訓練の実施して知識をたかめるように努めています。近隣住民の方からの協力が得られるような体制は作られています。	地震のほか台風、大雪等の自然災害に対しても警戒しており、利用者の安全確保に対して避難訓練をはじめ法人と一体となりながら対策を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務内や会議、研修等で意識向上を図り、当法人の三訓をもとに利用者の誇りやプライバシーを尊重するよう心掛けています。	急な事態や多忙の際にも利用者への接遇が維持されるよう指導に努めている。法人内の勉強会等がなされており、理念の実践と振り返りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から馴染みの関係を構築し、利用者に合わせて声掛け、コミュニケーションを図り自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れはありますが、本人との関わりの中で、体調や気分に応じて希望を引き出したり察したりしながらその日を過ごせるように支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはこちらで用意したものを着ていただいているが、本人から希望があれば選んでもいただけるよう支援しています。また2ヶ月に1度、美容師にカットを依頼するなど身だしなみとおしゃれを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内にあるセントラルキッチンからの供給のため準備や片付けは行っていません。食事後にテーブル拭きをお願いしています。食事には音楽を流すなど毎日の食事が楽しくなるよう工夫を心掛けています。	食卓にはパーティションを設置するなど衛生対策が施されている。行事食の提供等利用者が食を楽しめるよう工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し体調に応じた食事を提供しています。水分は毎食事、10時、3時に1日1500mlを目安に摂取していただき、食事、水分はチェックし記録しています。月1回体重測定も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。また、夜間は入れ歯をはずし水につけ、週2回は洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握しその方に合った声掛けで対応しています。排泄チェック表を活用し排泄時の様子や体調によっても対応しています。	日々の排せつの記録が細くなされており、職員が確認できるよう書式とツールが整備されている。便秘がちな利用者に対してはなるべく薬に頼らないよう、早期に医師に対処を相談するなど対応に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を含む献立やおやつを提供、1日1.5ℓ水分を摂取を基目標に排泄チェック表を使い便秘になりそうな時は下剤等の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴をされています。入浴日は決めさせていただいていますが、その日の体調や気分に応じて個々のペースで入浴できるよう支援しています。拒否的な方には声掛けの工夫や職員の交替など行っています。	利用者の状態によりシャワー浴や足浴を活用しながら清潔の保持に努めている。利用者が気持ちよく入浴できるよう声掛けや促しの工夫にあたっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したり、安眠へ向けた環境として照明・室温を整え安心して休んでいただけるように支援しています。不眠がみられる場合にはホール等で過ごしてもらう等の工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬をファイルし、服薬時には利用者名と薬があっているか職員2名で確認、服薬できたかの確認。場合によっては家族、主治医に服薬状況を報告し薬の変更があった場合は、職員間で情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能の活用や利用者の力を活かせる役割などを見つけてだし、発揮していただけるように支援しています。但しコロナの影響で行事の参加、外食は実施できませんでした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において思うように戸外には出掛けることができませんでした。	コロナ禍にあっても状況を考慮し、ゴミ捨てや近隣への買い物など工夫しながら外出を楽しんでいる。ホーム全体ではなく、個別や少人数の外出にて切り替えながら対応にあたっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣い金としてお金を預かり職員が管理しています。、購入時には家族の了解、又は報告を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話や手紙のやり取りは難しいですが、家族からの届け物があった時には電話をかけて話をします。手紙葉書が届いたときには本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間を通じて温度、湿度、換気の管理にも注意を払い居心地よく過ごせるように配慮しています。コロナ禍で思うように外出できないがホーム内を季節感のある飾りつけを施しています。	利用者の写真の掲示等温かみを出すよう取り組んでいる。常時の換気に加え、加湿器、サーキュレーター、空気清浄機を使用し、厳格な衛生管理と職員への留意にあっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分転換が図れるようにホーム内にソファを置いたり、テレビを見たり出来るよう工夫している。また一人になりたい時には自室に行ったりと、自由に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では気持ちよく過ごしていただけるように、馴染みのある物や家具の配置にも気を付け、自分の居室だと確認できる物を居室前に置き自分の居場所が確認できることで居心地よく過ごしていただけるよう工夫しています。	居室担当者により日々の生活の把握がなされており、職員会議での報告により全職員での共有がなされている。居室では横になるなど休息をとり、ゆったりと過ごしてもらえるよう環境整備にあっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室・玄関に手すりを設置、居室やトイレの入口には表札を付け、安全に安心して自立した生活が送れるように努めています。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	グループホーム内でも身体拘束廃止について取り組みを実施しているが情報等が限られたものになっている。	より多くの事例考察や業務効率向上を図るため、法人内のスケールメリットを活かして、併設の併設の特別養護老人ホームと共催等を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他部署との会議共催</li> <li>・Web (Zoom等)での開催を検討</li> <li>・開催日時等の検討(開催しやすい会議を実施)</li> </ul>	6ヶ月
2	10	今後高齢化や重度化により利用者様の入れ替わりが考えられる。新規ご利用者様受け入れの際、家族様との関係構築を円滑に築き、入所後柔軟な対応の検討が求められる。	多様化する家族様との関係を構築するため、法人・職員等と検討・考察を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時における遠方の家族との対応</li> <li>・通院同行に対するホームの負担軽減</li> <li>・将来的な後見制度の理解と活用</li> <li>・入居後まもない家族との良好な関係構築ための研修</li> </ul>	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。